

またの きぞう
俣野喜三さんのプロフィール 認定No.13

(AI 囲碁キッズクラブ)

今回、認定No.5の西脇安信さんから、囲碁歴53年の俣野喜三さんを紹介いただきました。俣野さんは、高校を卒業後、亀岡市役所固定資産税担当の臨時職員として亀岡じゅうを回ったという。その時の上司から「若いうちから趣味は持ったほうがよい。歳をとってからでもできる、囲碁をやったらどうだ」と勧められたのが、囲碁との出会い。もともと勝負ごとが大好きだったこともあり、また、近所に準プロの棋士も住んでいたため、即、始めたとのこと。新聞の囲碁記事を切り抜き、独学で戦法を研究し、市内の囲碁クラブに属し対戦を楽しんでいたが、腕が上がるにつれて、市内の小中学校に指導にもまわり、10年ほど前から亀岡市出身のプロ棋士、井上綾子さん主宰の「AI 囲碁キッズクラブ」で活躍中。彼に囲碁の魅力について尋ねると、「知らない人とも打てる。打った後は友だちになれる」と即答。おかげで、友だちには不自由しないとか（笑）。セカンドライフを自分らしく有意義に過ごされている、とまずもって感心させられました。これからの夢を訊くと、亀岡市民の半分が囲碁をやってほしい、そのためにも子どもたちに指導を続けたいという。囲碁をやれば、おとなも子どもも「考える力」が身につく。何よりの“勉強”だと、インタビューしながら思った次第。なるほど。戦国時代、あの信長も秀吉や家康と囲碁をやっていたとか。光秀さんはその仲間に入っていたのかな（笑）。



2019.2.17 松尾 清嗣